

## 社会の現場で自己確認 インターンシップ体験記

インターンシップは、仕事を体験することで学ぶ目的を再確認し、職業選択に生かすことが出来る。12月7日、生田キャンパスで経済・経営両学部の体験発表会が行われた。参加者の体験記を紹介する。



内田祐介さんと島田祐輔くん  
常に目的・問題意識を持つ 研修の成果決める積極行動 内田祐介(経済3) 島田祐輔(経済3)

206日間という研修期間でした。中でも11月10日開催の第26回狛江市民まつり(以降、祭り)の企画・実行委員会に全11回参加し「サッカー教室」という自分たちの企画案を出し、FC東京に交渉・協力要請をして、実現させました。祭り当日は、実行委員・ボランティアの一員となり、裏方として警備や清掃といった職務に徹しました。市役所の役割は、自分たちが在籍した企画・実行委員会を支えることでした。もし市役所の方たちの力がなかったら、祭りは実現に至らなかったと思われます。

この研修に挑戦した理由は、祭りを一から作り上げ、自分達のカ次第で変えることが出来る、インターンシップの概念に捕われない研修だったからです。研修で心掛けたことは、お客さんではなく実行委員の一人として「大勢の人に祭りを楽しんでもらう」という目的を持って行動することでした。積極的に企画を出したことで、他の委員の方々からアドバイスや激励、そして信頼を得ることができました。インターンシップは自分次第で、有意義なものになるかそうでないものになるかが決まるものです。

研修を終えた現在、心底やってみてよかったですと思います。以前には想像もつかなかったより多くの人たちに出会うことが出来、常に目的と問題意識を持つようになった自分がここにいます。私たちの願いはより多くの学生に、研修先の一員としての自覚を持ってインターンシップを体験してほしいことです。人それぞれ学ぶことは違うと思いますが、必ず意識変化のきっかけとなるはずで。華やかな祭りという舞台の裏で動き、学んだことは、自分たちの一生の糧になり、今後何か壁にぶつかるようなことがあった時に振り返る原点になると思います。◆研修先…狛江市役所企画財政部市民協働課



研修を行った法人営業部で。最後列左から3人目が吉津くん

## 営業同行で貴重な体験 吉津 紘一 (経営3)

私が研修をさせていただいたミズノ株式会社は、ご存知のように野球、ゴルフなど総合スポーツ用品メーカーとして世界的に活躍している企業です。世界のミズノにいくということで、主体的にいろいろなものを吸収しようと胸をときめかせて研修に臨みました。

この研修で配属となった部署は、法人営業部というところでした。この部署は名前から分かるように、スポーツジムなどの法人企業への営業を業務とする部署です。ここでの研修は主に営業同行と伝票整理などの内勤業務をやらせていただきました。中でも営業同行は、学生としての研修だったにもかかわらず特別に組んでいただいたもので、実際の社内研修でもやっていないとのことでした。そのため、とても貴重な体験となりました。

この営業同行を通じて、お客さんに商品を理解していただくプレゼン能力、またお客さんのニーズを聞き出す能力、さらには、自社の売りたい商品とお客さんの求めるものをマッチングさせる難しさを実際に肌で感じる事が出来ました。このことは今後、就職活動で必要不可欠なことであるため、研修で一番の収穫だと思います。また、実社会に一時的にでも身を置くことで、大学生活では感じる事ができない会社の雰囲気を感じることが出来たことは、大きな意味があったと思います。この企業研修というカリキュラムは、実社会で求

められるコミュニケーション能力を磨く上でとても有意義なものでした。◆研修先…ミズノ  
株式会社法人営業部

[1月15日/ニュース専修10面]